



2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 郡山市立安積第二小学校 】

1 実践テーマ	Ⅲ ・ Ⅳ ・ Ⅴ
2 実施対象者 (学年・人数)	4年 65名 5年 66名 6年 63名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育科) ② 行事名 (ボッチャ体験教室・車いすバスケットボール体験活動) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目 標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピック競技開催地区の県民・市民として、多様な文化を受け入れ、人々が互いの人権を尊重し合い、ともに力を合わせて生活する共生社会の実現を目指す。
5 取組内容	<p>○ 11月14日(木)にパラリンピックの正式競技である「ボッチャ」の体験学習を5年生が実施しました。聞いたことはあってもやったことがないという児童がほとんどでありました。講師の先生のご指導をいただき、全員を8チームに分けて対戦形式で体験しました。拍手や賞賛の声が上がるなどとても盛り上がり、終了後には、「意外と簡単でおもしろくて楽しかった」という感想がたくさん聞かれました。来年のパラリンピックでも興味を持って競技を観戦できることと思われます。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>○ 11月28日(木)の2校時目に4年生が3校時目に6年生が体育館で、車いすバスケットボール体験教室を行いました。講師は、車いすバスケットボール「チームアース」の選手のみなさんで、発祥やルール、見所やおもしろさなど、車椅子バスケットボールについてのお話を聞いた後、10人ずつ交代で、</p>

	<p>実際に車いすに乗り、動いたりパスをしたりシュートをしたりする体験を行いました。子ども達からは「車いすなのにこんなに激しく動いた。」「車いすからのシュートなのによく入ってすごいなあ」などの感想がありました。体の不自由な方のことを考えたり、パラリンピックに対する関心を高めたりすることにもつながる貴重な経験でした。</p> 
<p>6主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ボッチャを体験したことによって、ボッチャそしてパラリンピックに対する興味・関心を高めることができました。競技の話題で、友達と話し合ったり、声かけをしたりする姿が見られコミュニケーション能力の育成に役立ちました。 ○ ボッチャの用具をお借りすることができ、休み時間を利用してボッチャを楽しむ児童が見られました。特に、ふだん業間の時間や昼休みに教室で過ごす子どもが体育館に行って自主的にボッチャを行い、運動することの喜びを感じたようです。 また、友達と一緒に行動することの達成感が高まり、友情の深まりが見られました。 ○ 4年生の体験学習を終えて、総合的な学習の時間に車いすやパラリンピック等について調べる児童が多く見られ、パラリンピックに対する興味・関心が高まりました。
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 講師の先生を招聘し、車いすでもダイナミックなプレーができることを紹介していただきました。 ○ 10分程度の講話の時間を設け、障がいがあってもなくても人間としてお互いを尊重しながら自分のよさを発揮して生きていくことの大切さを教えていただきました。
<p>8主な課題等</p>	<p>目的や方法を明確にして全校生が参加できるように、教育課程に事前に組み入れると「何のために」「どのような方法で」「どんな成果を求めるか」がはっきりして実施の価値が生まれると思いました。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ パラリンピックに関する事業を道徳教育の一環として教育課程に位置づけ、社会の形成者として必要な資質の育成を図る。特に、本校の課題である規範意識の高揚や認め合い、支え合う学級集団の育成に活用していきたいです。 ○ オリンピックの種目に関する体験学習を通して、運動の楽しさや異文化への理解を深め、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基盤づくりの機会としたいです。それにより、豊かなスポーツライフの実現に向けて適度に体を動かすことが体力を維持することにつながることで、体力は人間の活動の源であり、健康の維持のほか意欲や気力といった精神面の充実に大きく関わっていることを理解させたいと考えます。